

## NPO法人学生人材バンク（鳥取）

学生人材バンクは、鳥取県鳥取市を中心に活動しているNPO法人です。当時大学院生だった代表（中川玄洋）が2002年に創業し、今年で18年目になります。

大学進学を機に鳥取へ移り住んだ中川は大学生活の傍ら、様々なプロジェクトの企画運営を行っていました。それらは、中川の「やってみたい！」を面白がって助けてくれた大人たちがいたからこそ実現できたものでした。「この経験や出会いを後輩につなげたい」と考えた中川は、学生人材バンクを創業し、活動を始めました。

創業当初から、過疎化・高齢化のため自力では集落維持が難しい鳥取県内の農山村に対し、大学生の農業ボランティアを派遣する事業を行ってきました。現在もそれをはじめとした大学生へ経験や学び、出会いを提供する事業を行っています。

現在では、

- ・農業ボランティアへの参加
- ・集落をフィールドにしたプロジェクトへの参画（集落の田んぼを借り、お米の生産販売を行うなど）
- ・県内企業を対象にした長期実践型インターンシップへの参画（学生のキャリア開発と企業の事業開発が目的）
- ・卒業後に鳥取に残りたい学生に対する移住定住の支援（学生と受入地域のマッチング）など各学生の段階に合わせた地域との接点、経験と学びの場をワンストップで提供しています。

また、学生のプロジェクト支援や移住定住支援の知見を生かし「地域おこし協力隊」制度を活用して鳥取に移り住んだ方の事業推進支援や、任期満了後の創業・就職支援も行っています。

鳥取県内の中小企業の事業開発、組織開発を目的とした事業にも力を入れています。

- ・地域企業のプロジェクトに関わりたい都市部人材と鳥取県内の中小企業のマッチング、プロジェクト推進支援
  - ・社内研修の企画・運営（新卒社員向け社会人基礎力研修、中堅社員向けプロジェクトマネジメント研修など）
  - ・その他経営相談・コンサルティング
- などです。

18年間、時代に合わせて事業メニューを拡大し、様々な主体に価値提供を行なってきましたが、継続的な運営を行う上での課題もあります。それは、創業当初から現在に至るまで、売上の多くが行政事業だということです。毎年その事業に予算がつく保証がないため、年によって収益にばらつきが生じます。収益を安定化し、各主体への継続的な価値提供を可能にするため、今後はより一層、民間（企業）からの売上比率を高めていきたいと考えています。



## ■団体の目指すもの、価値

2002年の創業以降、学生を対象にした事業だけでなく、地域おこし協力隊や企業への支援事業に裾野を広げてきました。サービス提供を行う対象が広がっていくにつれて「自分たちの価値や目指すものは何なのか」を整理する必要が出てきました。昨年末から年初にかけて、ビジョンとミッションを再構築するためのワークショップを複数回行いました。

議論の中で、これまでの十数年を振り返り、これからの十数年を見据え、ビジョンとミッションを定めました。

---

### ビジョン：すべての人が心の灯を絶やさない社会

誰もが心に灯をともしている。私たちはそれを「現状から少しでも良い方向へ」という想いだと考えています。私たちは「ひとりひとりの想いが応援され、実現する社会」を目指します。

### ミッション：ふみだす人のつなぎ手になる

1人ではできないことも、2人いればできる。私たちは、立場や考え方の違いを超え、同じ方向を向くための「つなぎ手」を担い、それぞれの想いの実現に取り組みます。

---

学生に限らず、集落や企業など、地域で生きるそれぞれの方の想いが応援され、実現する社会のために、今後も各主体をお繋ぎし、サポートしていきたいと考えています。



### ■地域のNPOとして、コロナとどう向き合うか

中小企業のサポートをする中で、製造業、小売業、サービス業など、多くの企業とお付き合いをさせていただいてきました。いくつかの企業とは、定期的にコミュニケーションを取ったり、お困りごとがあればご相談をいただいたりなど、良好な関係を築いています。

その中で分かってきたことは、地域には「自社の利益を追い求めるだけでなく、地域に価値をどう還元していくか」について考え、チャレンジしている企業が多く存在するということです。

学生人材バンクのビジョン/ミッションにもあるように、今後も、そのような想いを持って事業に取り組まれている中小企業のサポートをしていきたいと考えています。

---

新型コロナウイルスの感染拡大は、地域の中小企業にも大きな影響を与えています。県外をまたぐ移動の自粛要請が出される中、お客さんが現地を訪れないとサービス提供しにくい業種（物産業や食品製造業、観光業など）のダメージは計り知れません。

学生人材バンクでは、厳しい状況に置かれる鳥取の中小企業に対し、何らかのサポートを行いたいと考えています。

世の中がオンラインに移り変わり、遠隔のコミュニケーションが当たり前になってきています。その中で、現地へ行かなくても、企業（特に、物産業や食品製造業、観光業など）にお金が落ちる仕組みを作りたいです。

学生人材バンクとしても、先述の通り、企業さんとの取り組みを増やしていきたいと考えています。今回のプロジェクトを起点に、企業向け支援メニューの開発や、企業との接点づくりの機会を持てればと考えています。

「ウィズコロナ時代をどう凌ぐか」「リアルをどうオンラインで代替するか」という発想ではなく、コロナが去った後（ポストコロナ時代）の新しいサービス体験や価値を模索したいです。後述の「卒業生」コミュニティ、「関係人口」コミュニティなども絡めながら、あらゆる可能性をインターン生の方と考えたいです。

### ■卒業後も心に生き続ける「鳥取」

団体創業以来、プロジェクトに参画した大学生の人数は300名以上になります。そのうち、鳥取県外出身にも関わらず、鳥取県にIターン就職した人数は30名以上を数えます。県外就職した卒業生も、定期的に鳥取に遊びに帰ってきてくれます。

県外出身学生が8割にも昇る鳥取ですが、地域のプロジェクトに取り組むことで土地に愛着を感じ、鳥取のファン（関係人口）になる学生が増えています。卒業生の中には、仲良くしていた集落の方のはなれに住んでいる人もいます。

「仲良くなった地元の人がいるから鳥取に残った」と語る卒業生も多く、地元の方への愛着が土地への愛着にもなることを、18年の活動の中で感じています。





### ■オンライン関係人口未来プロジェクト

今年の4～6月にかけて、長野県塩尻市役所の山田崇さん（※）と「オンライン関係人口未来会議」を毎週開催しました。

2020年2月に鳥取県が主催した「関係人口創出を考えるシンポジウム」のゲストだった山田さんから「塩尻市、鳥取県、鳥取銀行、学生人材バンクで関係人口を作っていくような企画がやりたい」と話があたり、スタートしました。

※空き家を活用したプロジェクト「nanoda(なのだ)」や、首都圏のプロ人材との協働による官民連携プロジェクト「MICHIKARA～地方創生協働リーダーシッププログラム」を仕掛ける。「地域に飛び出す公務員アワード2013」大賞受賞。

オンラインにて、関係人口や地方創生にまつわるゲストを招き、事例紹介や参加者との意見交換を行っています。これまでのべ300人程度が参加しており、その居住地域は、鳥取、塩尻、東京、大阪、高知、島根、広島、熊本、青森、三重など幅広いです。また、都市部と地方の参加者がだいたい半分ずつと、バランスが良いことも特徴です。

都市部からの参加者には、複業に興味がある方や、プラットフォームビジネス、インフラビジネス（公共交通など）に携わっている方もおり、地方と都市、または地方と地方を繋ぎ、行き来する流れを生める可能性を感じています。

「自分のスキルを生かして地方に関わりたい」都市部の方と「課題解決のために何か新しい取り組みをしたい」地方を繋ぎ、新しい価値をつくっていきたいと考えています。

<ゲスト>

- ・第1回～4回：鳥取銀行、高知県土佐町役場、グロービス地域活性化クラブ、塩尻市役所、三重県尾鷲市夢古道おわせ
- ・第5回～7回：スロージョギングチームSaturdaySeven、パソナJOBHUB、(株)おてつたび
- ・第8～9回：ANAデジタルデザインラボ、ゆるいぼっぼ屋の会（JR西日本、東日本、私鉄等有志の団体）

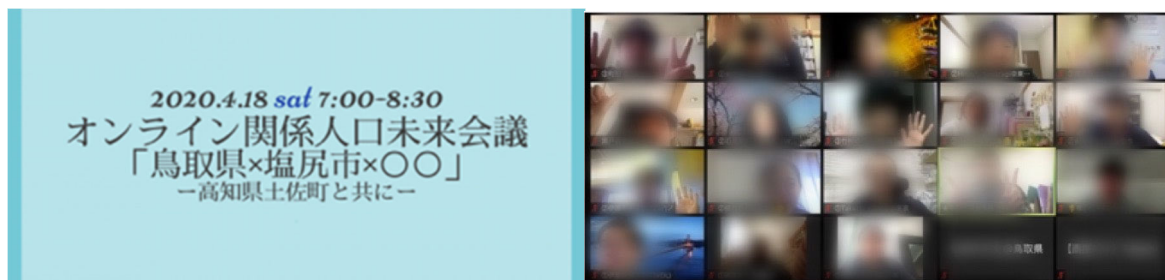
企画は6月にいったん終了しますが、今回生まれた繋がりを生かし、新しい取り組みにつなげていきたいと考えています。

取り組み案としては、

- ・構想を形にするための「オンラインコミュニティ」の立ち上げ
- ・オンラインコミュニティ内でのセミナー企画、プロジェクト実施
- ・参加者の所属企業によるコラボレーション企画

などを検討しています。

コロナとどう共存し、これらの取り組みを進めていくかが今後の課題です。



## ■学生人材バンク事業概要

学生、企業、集落など異なる立場の方々をつなぎ、それぞれの想いの実現に向けたプロジェクト設計・推進をサポート（コーディネート）しています。

- ・長期実践型インターンシップのコーディネート
- ・兼業人材を活用したプロジェクトコーディネート
- ・企業研修の企画運営
- ・企業コンサルティング
- ・地域おこし協力隊支援（行政受託）
- ・農山村ボランティアコーディネート（行政受託）
- ・学生プロジェクトチームのコーディネート
- ・ワークショップ、イベント企画運営

## <実績>

- ・農山村への学生ボランティア派遣（平成16年度～）
  - －学生ボランティア参加者数：のべ555人、ボランティア受入集落数：44集落（令和元年度）
- ・学生が参画するプロジェクト
  - －プロジェクト数：2、参画学生数：約100名（令和元年度）
- ・長期実践型インターンシップ（平成28年度～）
  - －プロジェクト数:20、参画学生数:4名(県外在住)、16名(県内在住)
- ・弊社が支援する学生プロジェクトで活動後、鳥取県内に移住した県外出身学生：33名
- ・地域おこし協力隊支援（平成26年度～）
  - －自治体数：14（鳥取県内）、隊員数：約50名（平成26年度）
- ・兼業人材プロジェクト（令和元年度～）
  - －プロジェクト数：4、参画兼業者数：4
- ・研修の企画・運営
  - －民間企業：4社、行政・公的機関：7団体

## ■組織体制

学生や企業、行政など、多くの関係者とプロジェクト・事業推進を行うコーディネーター3名と、経理・総務など会社内部にまつわる業務を行うバックオフィス2名で運営しています。

コーディネーター：3名

- －代表理事：中川玄洋（写真右上）
- －県西部担当：藤吉航介（リモート業務）（写真中央上）
- －県東部担当：松梨一揮（写真左下）

バックオフィス：2名

